

〇〇様

こんにちは、日本臨床漢方医会です。

すっかり寒くなってまいりましたが、お元気でいらっしゃいますか。

以前のメールで「漢方薬が保険で使えなくなるかもしれない！」という動きがあったことをご紹介いたしました。

健康保険に適用されるかどうかで、治療費が10倍以上変わり、漢方治療を受けたくても受けられない可能性も出てきます。

その為、当会では継続して漢方擁護活動を進めてまいります。

漢方が保険から外されない為には、国民の

“ひとりひとりの声”が何よりもパワーを持っています。

それに加え、漢方薬が保険適用となる為には、政策を審議する国会議員の方々の協力も必要です。

「日本の誇れる漢方を推進する議員連盟」の国会議員の方々より、メールマガジンへのご寄稿をいただいておりますので、ご紹介したいと思います。

議員の方々が「漢方をどのように考えているか、国政にどう反映していこうと思っているのか」については、大変興味深いと存じます。

今回は、5名の議員の方々のご寄稿を掲載させていただきます。よろしければ最後までご覧下さい。

なお、当会は特定の政党を支持しておりません。

このため政党名や肩書などは紹介いたしませんので、ご了承ください。

- 【1】漢方の未来 衆議院議員 鴨下 一郎
- 【2】健康が一番！ 衆議院議員 西銘 恒三郎
- 【3】日本の伝統医学・漢方に期待します
衆議院議員 池田 道孝
- 【4】漢方は健全な医療の提供に不可欠
参議院議員 中川 雅治
- 【5】漢方をはじめとする東洋医学の神秘
衆議院議員 中谷 真一

【1】私と漢方薬

漢方医学は、奈良時代より我が国で独自の発展をとげた伝統医学です。

超高齢化社会を迎える日本において、西洋医学と日本の伝統医学の双方による、世界に類のない、最高の医療を国民が受けることができるようより一層漢方医学を推進・定着させていく必要があると考えています。

これらを背景に、自民党内に平成24年8月に
「日本の誇れる漢方を推進する議員連盟」を設け会長を引き受けました。

議員連盟では、これまで9回に及ぶ議論を行っており、
会員数も既に100名を越えています。

今後も漢方推進に向けて精力的な活動をしていきます。

高齢化社会に対する漢方医療の充実は、
国民一人一人にとって大変に意義深いものであります。

先進医療とともに伝統医学等の推進に積極的に取り組むことが、国民の皆様の要請に応えることであり、漢方医学の活用によりＱＯＬ（生活の質）の維持・向上に寄与できると確信しています。

一方、漢方を推進するためには解決すべき様々な課題があります。

特に、原料生薬を海外に依存している中で、生薬の価格の高騰等により今後安定的な調達が困難となる恐れがあることから、議員連盟では国内生薬栽培の環境整備に向けた議論も行っています。

これを受け、厚生労働省と農林水産省では生産者と漢方メーカーとのマッチングの取り組みをスタートさせています。

また、農林水産省では産地化に向けた支援事業を予算化するなど、行政による取り組みも進み始めています。

今後も、日本で独自に発展した漢方医学を絶やすことなく、後世の国民医療に引き継がれるよう、強い使命感をもって議員連盟の活動を担っていきたいと思います。

衆議院議員 鴨下 一郎

【2】 健康が一番！

生まれた時から政治家の家で育った私は、選挙が身近で、1960年代から選挙に関わってきたと申し上げても過言ではありません。

今年60歳の還暦を迎えておりますが、私自身が初めて落選を経験して浪人中の3年3か月間、身にしみて痛感したことが『健康が一番』という言葉です。

まず健康でなければ政治活動も何事もできないことは、
自明の理であります。

漢方は医が弱い、わが家の家系で、
私にはなくてはならない友のような存在です。

薬という感覚はあまりなくて、食生活のリズムになっている感じです。
無理なく毎日の生活必需品です。時々忘れることはありますが。

体力健康維持には気をつけながら、
適度な運動と漢方は、私の必需品であります。

『健康が一番』、1日1回自分自身に言い続けています。

衆議院議員 西銘 恒三郎

【3】 日本の伝統医学・漢方に期待します

わが国は2025年に高齢者人口が約3600万人になるという推計もあり、
世界でも例を見ない超高齢化社会になってまいります。

そのため、安倍政権では成長戦略の重点領域の1つに「健康・医療」を
位置付けて取り組んでおります。

私はこれら課題に対して、日本の伝統医学である
漢方に大いに期待しております。

特定の部位や疾病に限定せずに、患者の心身両面にわたり
総合的な予防・治療を行う漢方医学は、国民の幸せに直結する健康に
長生きできるだけでなく、社会保障制度を持続可能にするための
生涯医療費の抑制にもつながっていきます。

また、漢方製剤等の使用量増加に伴い、
原料である生薬は今後も需要の拡大が見込まれており、
農業の所得向上に大きく貢献する事が期待されます。

しかしながら、現状は生薬の約8割を中国からの輸入に依存し、
国内での生産量は1割程度しかありません。

中国では一部の薬用作物の輸出制限を課すなどの動きもあり、
安定供給の面からも懸念されており、一刻も早く国内での供給体制を
整えていく必要が有ります。

今後、薬用作物の産地化を促進していく事で耕作放棄地の活用や
中山間地域の活性化を図っていく事も考えられ、
生産・加工・流通を通じて大いに成長していく可能性が有ります。

衆議院議員 池田 道孝

【4】 漢方は健全な医療の提供に不可欠

日本臨床漢方医会の平成26年8月1日の決議文にありますように、
「漢方」は、まさに日本の伝統医学であり、
実際に「漢方薬」は医療の現場において広く使用されています。

私も漢方薬を愛用している者の一人です。

今、「漢方」の治療効果は、世界的に見直され、期待されています。

医療費削減にも繋がりますし、特に高齢者を対象とする
医療には不可欠であります。

「漢方」には過去2千年の臨床実践データがあると言われています。

日本漢方医学研究所によれば、西洋医学は専門分野に細分化されていますが、漢方は病人を全人的に捉え、多くの病気や症状を総合的に見ることを目指していると言われています。

こうした考え方は特に高齢者の治療に有用であり、長寿社会には必要不可欠だと思います。

日本臨床漢方医会は、国に対しても、漢方薬が健康保険の適用から除外されることなく、今後も継続して保険適用されることを強く要望されています。

渡辺理事長が主張されているように、国内外の情勢を見据えて、漢方を用いた我が国の健全な医療が提供できるよう私も政治の場において努力してまいりたいと考えております。

参議院議員 中川 雅治

【5】 漢方をはじめとする東洋医学の神秘

冷え性に苦しむ妻に漢方を勧め、
飲み始めた妻の症状は、大きく改善をしました。

なぜ私が漢方を勧めたのか。

それは漢方をはじめとする
東洋医学の神秘を体感した経験があったからです。

ラグビーの大学4年生最後の大切なシーズン、
私は強い首の痛みに苦しんでいました。

何とか試合に出なければと西洋医学の治療に頼りましたが、
休めと言われるだけで目的を満足させることはできませんでした。

そこで紹介されたのが鍼、東洋医学の治療でした。

早速治療を受けに行くと、先生は首ではなく
右足に鍼を打とうとします。

慌てて「痛いのは首です」と言うと、にこやかに笑いながら
「大丈夫。ここに打てば痛みが取れるから」とおっしゃいました。

その後、私は漢方と鍼のおかげで痛みがとれ、
残りの全試合に出場することができ、
素晴らしい大学ラグビー最後のシーズンを送ることが出来ました。

経験則であり、科学的にはなぜ痛みが取れたのかは
よく分かりませんが、漢方にもそのようなことは多いようです。

「大切なものほど目に見えにくい」非常に神秘的な体験でした。

私や妻のような症状や目的を持った方は、
たくさんいらっしゃると思います。

しかし、必ずしもこれらが選択されているとは限りません。

これらの経験をした者として、さらに安全性・信頼性を高める
環境を整備し、少しでも多くの幸せにつながるよう
お手伝いをして参りたいと思います。

衆議院議員 中谷 真一

◆編集後記

今週中に衆院解散を表明し、「12月2日公示・14日投開票」の日程で衆議院選挙が行われるようです。

漢方薬の保険適用問題については、今後も安心して利用できるかどうか注目していくことが、漢方を守ることに繋がると思います。

引き続き関心を持って、見守ってまいりましょう！

本会ではメルマガ配信をはじめ、ホームページやフェイスブックページでも漢方情報をお届けしております。

時節柄ご自愛いただき、健やかに冬をお迎えください。
今回は、通常版の医会メルマガ冬号の配信予定です。

最後まで読んでいただき、有難うございました。

日本臨床漢方医会



発行元：日本臨床漢方医会事務局

ホームページ： <http://kampo-ikai.jp>

Facebook： <http://www.facebook.com/kampoikai>

お問い合わせは、 jim@kampo-ikai.jp まで

当メールは署名もしくはHPでご登録いただいた方にお送りしております。

アドレス変更&配信停止はこちらのページからどうぞ。



http://kampo-ikai.jp/web_henko

